



# 学校だより 2月号

文京区立第一中学校 令和7年2月19日(水)

編む

校長 田島佳子

編む：糸や竹、籐などを互い違いに組む。文章を集めて書物を作る。

今はあまり見かけなくなりましたが、冬と言えば毛糸の手編みのマフラーや帽子、セーター、靴下などがあります。私が子供の頃は母が三角のストールやグラニースクエアという編み方でこたつ掛けや座布団掛けを編んでいました。棒編みで二目ゴム編みの白くて長いマフラーが流行って、中学校2年生の時に母に教わり、マフラーを編んだのが、編み物との出会いとなりました。その後は、叔母が得意だったこともあって、棒編み、かぎ編みで、帽子や手袋、靴下、セーター、カーディガンなど一通り編みました。子供ができたときにはおくるみや子供服も編みました。サマーヤーンで冬だけではなく、春や初夏に着られるものも編んでいました。そのうち忙しくなって編み物から遠ざかりました。30年近くやっていかなかったと思います。ずっとタンスの奥で眠っていました。それがひよんな事で目覚めてしまったのです。4年くらい前の12月に入ってすぐの頃に孫娘が私の部屋のタンスの中に棒編みの棒やかぎ針、毛糸の余りを見つけたのです。目がきらっと光って「おばあちゃんは、編み物ができるのか!」と聞くのです。「うん、できるよ。」と答えると「寒くなってきたから帽子と手袋を編んでほしい」と目をきらきらさせて言うのです。その年の暮れの12月30日からお正月にかけて富士山の近くの温泉に行く予定があり初めてのスケートも計画していました。「おばあちゃん、スケートまでに編めるか」と言うので「たぶん、間に合うと思うよ」と答えたら、「よし!」と言ってガッツポーズをしていました。もしかしたらお友達が手編みの何かを持っていて、うらやましいと思っていたのかもしれませんが。まさか、うちにも編み物ができる人がいるとは思わなかったのでしょうか。本当にうれしそうだったので、しばらくぶりにかぎ針を手にししました。ずいぶんと長いことやってなかったので手が動きを忘れていましたが、少しやったら思い出しました。娘と孫娘にお揃いの帽子と手袋を編みました。

一目一目編んでいく編み物は、とても手間がかかります。編むという作業は何もないところから1本の糸を他の糸に絡めていきます。何回も何回も同じ事を繰り返します。そのうち、面積が出てきて形になっていきます。作るのではなく編む。多くの時間をかけて、一つ一つ組んでいく様に仕上げていく。だから編成と言って編むという字が使われると誰かに聞いたことがあります。

書物は作成ではなく、編集するのだと。

2年 校外学習  
鎌倉 1月31日

1年 校外学習  
都内巡り 1月30日

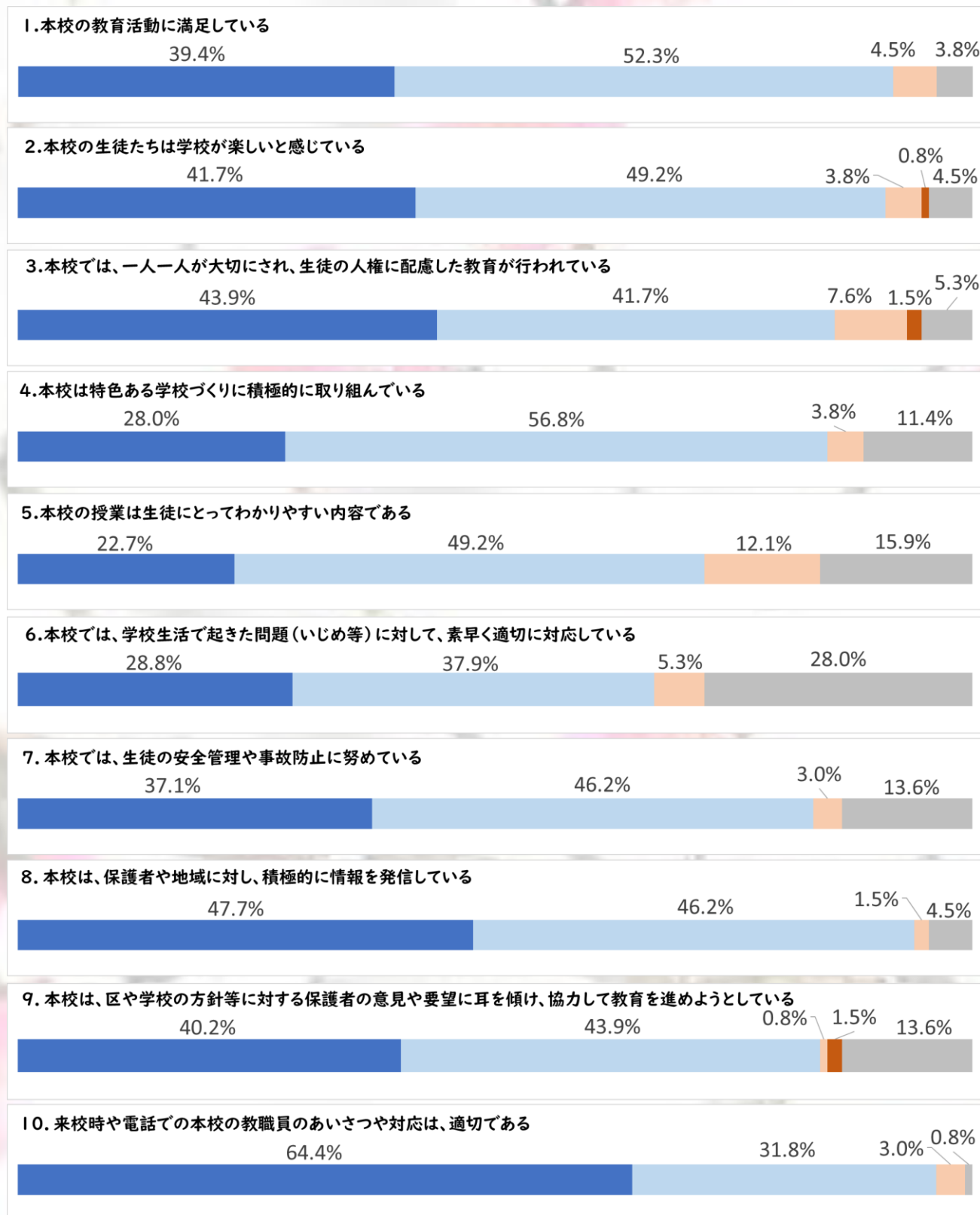
5組 ポートボール大会  
2月5日

新入生保護者説明会  
2月14日



## 令和6年度学校評価(保護者)

■ とてもあてはまる。 ■ まあまああてはまる。 ■ あまりあてはまらない。 ■ まったくあてはまらない。 ■ わからない



学校評価へご回答ありがとうございました。

課題がある項目につきましては、具体的な方策を講じてまいります。ご意見等を頂く機会やアンケートも必要に応じて実施して、よりよく学校を改善いたします。

また、保護者の皆様に学校での取り組みが伝わるように努めます。

これからも本校への温かいご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。